

CASBEE® 新築[簡易版]

評価結果

■ 評価用マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.4)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	八幡厚生病院新館新築計画	階数	地上3F
建設地	福岡県北九州市八幡西区里中3丁目	構造	RC造
用途地域	第1種住居地域・第1種中高層住居	平均居住人員	500 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	病院	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2012年10月 予定	評価の実施日	2011年7月1日
敷地面積	45,579 m ²	作成者	中田 幸宏
建築面積	4,000 m ²	確認日	2011年7月21日
延床面積	10,981 m ²	確認者	天野 修



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.1 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値: 100% (kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み: 72%

③ 上記+②以外のオンサイト手法: 72%

④ 上記+オフサイト手法: 72%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.4

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

3 設計上の配慮事項		
総合 精神病院としての治療環境をつくる建物として、施設に閉じ込められた印象を与えないように、日常的な住まいや街の環境に近い雰囲気となるよう計画している。また、敷地の起伏や高低差を生かし、敷地内の豊かな緑と調和する低層の建物としている。		その他 (注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 病室や食堂などがなるべく既存の樹木・緑地に面するようゾーニングしている。勾配屋根による庇を出す等、日射遮蔽効果に配慮している。	Q2 サービス性能 バリアフリー新法の建築物移動等円滑化基準および福岡県福祉のまちづくり条例の整備基準を満たしている。	Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の既存樹木を最大限残すように建物の配置計画を行った。
LR1 エネルギー 共用部にはGHP(ガスヒートポンプエアコン)、病室部にはEHP(空冷ヒートポンプエアコン)を採用し、エネルギーの分散化を図った。	LR2 資源・マテリアル 外壁にはタイル等、汚れのつきにくい素材を選んだ。	LR3 敷地外環境 階数を地上3階に抑え、周囲に対して圧迫感を与えないよう配慮した。周囲の街並みや緑豊かな環境に調和するよう、勾配屋根をかけるなどの配慮を行った。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2, LR1, LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
 ■ LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい